

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200621		
法人名	SOMPOケア株式会社		
事業所名	SOMPOケア そんぽの家GH柏		
所在地	〒277-0005 千葉県柏市柏1007-1		
自己評価作成日	令和6年3月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.sompocare.com/service/home/grouphome/Z000349/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO共生
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和6年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーションに力を入れており、スタッフが定期的に企画したものを外部に依頼したものを定期的に開催している。 ・看取り介護を行っている。また、24時間医療機関と連携が取れる体制が整っている。 ・スタッフの残業管理が行えており、月平均10時間以内となっている。 ・未経験や経験の浅いスタッフでも、意見や意思を自由に発言できる職場環境である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>SOMPOグループの一員であるグループホームという立ち位置にあり、グループ間の協力体制は強固なものである。災害時にはグループ全体でのフォロー体制が確立されており、利用者の安全と安心を守るための対応が迅速に行われるようになっている。建物は和風平屋建ての旅館風の造りで、利用者は自由に思い思いのままに暮らせる、開放感あふれる共有空間が構成されている。また、ICTの一元管理によるデータ化により訪問診療前の医師への情報提供がスムーズに行われている。職員からの建設的意見も多く、職員からの発案で昨年子ども食堂を実施するようになり、初回の近隣の子供にきてもらっての食事会を成功させている。それ以降は、更に地域の多くの人たちが参加できるように夏祭りや焼き芋会などのイベントを企画し、利用者も大いに楽しんでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念について、研修を通して全職員に周知している。 折に触れて理念について意識を共有している。	理念である「人間の尊重」を実現するために、現場では、まず第一に「接遇」に注意している。利用者は人生の先輩であり、過去の経歴を理解した上での接遇を心掛けている。常に膝を落とし、目線を合わせ、ユマニチュードを取り入れ、敬語を使用している。接遇については、年に1回の内部研修で周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に参加し、地域の行事や暮らしにつながりを作っている。子ども食堂として、地域の親子様に夏祭りや焼き芋会を解放。入居者の皆様と交流を持っていただいている。	毎年5月に柏市全体で行われる「ゴミ拾い」は昨年、コロナの影響で中止となったが、今年はホームからも町内会での「ゴミ拾い」に参加する予定である。昨年子ども食堂を企画実施している。初回は子どもたちを招いての食事だったが、2回目以降は近所の多くの人たちの参加を呼びかけ、職員が企画した8月の夏まつりや11月の焼き芋会が実施され、利用者と一緒に大いににぎわいを見せた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	子ども食堂、イベントの開放を行っている。 今後は、地域のゴミ拾いやお祭りに参加させていただきたく、働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	リアル開催を行っている。ホームの状況報告は随時行っている。家族様の意見やご要望をお伺いし、入居者様の生活の向上やサービスの向上を目指している。	コロナ第5類への移行を受け、昨年対面会議に切り替え2カ月に1回、第3月曜日に開催されている。会議前に出席者に案内を送り、意見・要望、グループホームの改善点、その他自由記入欄に書き込んでもらい、当日の会議で議題として取り上げるようにしている。出席メンバーは地域包括、家族、利用者、管理者、ケアマネなどで、今後は柏市の高齢化福祉課にも声をかける予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	柏市法人指導課と連絡を取り合い、困ったことは相談させて頂いている。	柏市法人指導課を窓口、連絡を取り合っている。昨年は市から抗原検査キットを支給してもらった。その他メールでコロナ関連・インフルエンザ・ノロウイルス関連の情報提供を受けている。柏市内のグループホーム連絡協議会に昨年より参加し、空き室のやり取りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修内容に「身体拘束防止」の内容及び、研修を通じて学んでいる。 また、身体拘束廃止委員会を定期的に開催している。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催している。内部研修として、年1回I-Padを使った本社からの動画配信で身体拘束に関する講座を受講することになっている。現場での実践としては、転倒リスクのある人に立ち上がりを抑制するのではなく、職員と一緒に歩くことやベッドからの転倒防止には柵を設けるのではなく、下にマットを敷くような対策を採用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修で「虐待」と「虐待防止」について学んでいる。虐待を見逃さない為の「通報窓口」が本部に設置されており、職員全員が常に通報窓口の連絡先を携帯している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に、本部からアンケートがお客様(家族)に送られており、意見や要望を伺う機会が設けられている。 返信が管理者宛に届き、ファイリングして誰もが確認できる。	本部より定期的に家族にアンケートを送信し、意見や要望を収集している。必要な場合は管理者に連絡し、適切な対応を行っている。家族からの意見は、運営推進会議の案内に記入してもらい、返送してもらう形で収集し会議の議題として取り上げている。要望には、外出機会の増加や食事の介護についてのものがあつた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行えている。	年2回の職員面談を実施し、多くの意見や提案を収集している。職員は今年度の目標達成に関する面談内容のため建設的な意見・提案となっている。夏祭りや焼き芋会などの企画は、職員からの提案によって実現されたものである。利用者から「おでんを食べたい」という話を職員が受け、食材を購入してユニットでおでんを囲んでのお楽しみ会ともなった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「事業所内ケア研修」として、定期的に職員研修がWebで受ける仕組みが社内にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡協議会、多職種連携の会に参加させていただいている。積極的に参加し、交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	行えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初は家族様とこまめに連絡を取り合い、本人様のお困りごとだけでなく、家族様に寄り添った対応を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行えている。家族も一緒に本人様を支援する一員として、同じ方向性で本人を支えていけるようコミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行えている。面会受付、手紙の代理投函、電話取次を行っている。昔馴染みの友人の来訪などもある。	利用者の多くはホームのある地域に住んでいたため、地域とのつながりが非常に強い。運営推進会議に参加された方が利用者を見て、アラツと顔を見合わせたこともあった(利用者本人は記憶になかったが)。このようなことから、近所付き合いをしていた人々が訪問してくれることもよくある。コロナ禍の影響で、職員による馴染みの場への連れて行くのは減少したが、娘さんが連れ出して近くの手賀沼温泉に行かれたことがあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去での退去が多いため、その後の連絡はしていないが、同グループ内での転居については後フォローも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴などと一緒にケアプランに本人様の思いや意向を記載、それに基づいてプランにも反映し、検討を繰り返している。	利用者一人ひとりの生活歴を家族から聞き取り、記録し、個人ごとの個性や性格を職員全員に周知している。これにより、「カスタムメイドケア」を目指している。元気な利用者は、運営推進会議に出席し、意見を言ってくれる。また、女性の利用者の中には、秋の夕暮れ時に帰宅願望が芽生える場合もある。その際には、利用者の意思を尊重するように接している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	極力行っている。家族様の都合で遠方から来られた場合など、難しいこともあるが生活歴は大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カスタムメイドケアを目指し、個別のプランを立案し、実践している。	入所期間に応じて、ケアマネと計画作成者の2名が中心となり、2~3ヶ月ごとに見直しを行う。それぞれの利用者に対して、現在何が必要であるかの視点からアセスメントを実施し、ケアプランが適切に機能しているかをモニタリングする。サービス担当者会議では、家族の要望も含め、一人ひとり個別の一日の活動計画に基づき対応している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	4月から記録システムが本格的に移働する。全職員で情報を共有し、カンファレンスで見直すことをサイクルで行っていく予定。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提供できるサービス(外部も含む)を常に模索している。実費はかかるが個別性のあるサービスの提供(自費訪問介護、訪問看護)も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	改善中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行えている。	内科医との契約診療は月に2回行われ、歯科医の受診は利用者個々のニーズに応じて適時実施されている。現在、日常の健康管理の基礎情報は、ICTの一元管理によるデータ化により、受診前の医師への情報提供がスムーズに行われている。緊急搬送が必要となった場合、管理者が同行し、その経緯を医療関係者に説明する。また、訪問看護は必要に応じて来所し、医療サポートを提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいない施設となるが、必要に応じて訪問看護を依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期においては早い段階から主治医と共有し、家族様、関係者を交えてどのように最期を迎えるかの話し合いを慎重に、定期的に行っている。	入所時には、利用者家族と共に意思確認書を用いて重度化の意思を確認する。医師からのムンテラを受ける際には、家族と一緒に確認を行う。心のケアに重点を置き、頻繁に声をかけ、「つらくないですか」「大丈夫ですよ」といった言葉で、利用者を安心させるよう心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を頂く訓練は行えていないが、研修を通して急変や感染症対応について学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、本部主体でマニュアルの用意がある。	災害時には、SOMPOグループ全体でフォローする体制が組まれている。地域の防災対策の一環として、事業所の前庭をご近所の緊急避難場所として申し合わせを行っている。非常食料は3日分の食料と水を備蓄しており、蓄電池では8時間分の対応ができるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間尊重の理念の元、人格やその方を尊重し、接遇面も重視している。	職員全員は利用者を人生の先輩として尊重し、言葉使いは敬語を基本としている。トイレへの誘導は小声で行い、利用者が恥ずかしくないよう配慮している。管理者は職員に対して、上から目線の介護サービスをするのではなく、仕事を頂いていると思いきょう、と指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定は大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好みのお洋服やおしゃれも、昔からお好きだったおしゃれを楽しんでいただける支援を心がけている。一律に、ケアのしやすい服(介護者目線)とならないように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部行えている。準備については、衛生上の問題から職員のみが行っている。片づけは、お手伝いいただける方にはご協力頂いている。	半調理ではあるが、調理の香りや調理する音が食欲をそそる。水道の点検時などは外食となり、マクドナルドを利用する際には、メニュー選びを楽しみながら迷っている。また、一人ひとりの誕生日には、利用者に嚮をつけてもらい、好きなケーキを個別に用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科にも協力していただきながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の能力に合わせ、トイレでの排泄を心掛けている。	職員は 아이폰 を持ち、利用者個人ごとの生活パターンに合わせた一日のスケジュールと行うべき項目を組み立てている。その中には、個人ごとのタイミングに合わせたトイレタイムが予定されており、職員は 아이폰 にチェックとコメントを記録している。一律同一のタイミングでの介護ではなく、個人ごとの生活サイクルに合わせた介護計画を立てている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理のない入浴へのお誘いは心がけているが、業務や人員不足のために思ったような支援が難しいこともある。	週に2回の入浴を予定しているが、入浴を嫌う利用者が多い。それに対応するため、利用者ごとにお湯を入れ替え、浴室にはバスタオルやリクライニングを備えている。また、利用者には「今日は〇〇の湯ですよ」と声をかけ、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になるタイミングで、様子の変化・特に副作用の出現については気を配るよう指示。様子の変化を記録に残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	アクティビティとしての「散歩」に力を入れている。ふるさと公園も近く、気候の良いときはお花見や紅葉を楽しみにしている。	近くの「ふるさと公園」には、車いすを押して頻繁に散歩に出かけている。また、近くでお花見にも出かけたという意向がある。理美容の訪問サービスは毎月一回行われ、利用者の半数が利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員による金銭の使用援助は禁止されている。 ※声掛けは行えるが、財布から代わりに支払うなどは禁止されている。本人様より要望があった場合も同様である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や便箋の代理購入、代理投函、電話の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行えている。	和風平屋建ての事業所は旅館に似た作りで、天井が高く開放感のある共有空間になっている。自動ドアはなく、全ての戸は日本風の引き戸である。広いリビングでは、風船パレーやSOMPO体操を行ったり、TVを見たり新聞を読んだり、一人ひとりが自由に好きなことをして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行えている。	利用者の今までの生活線上にある居室を作るため、思い思いのものを居室に持ち込んでいる。仏壇や家族写真、冷蔵庫や電子レンジを持ち込んでいる利用者もいる。居室の表には木製の表札が掛けられ、漢字で記された利用者の名前が掲げられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行えている。		